

1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

標準学力分析検査(フクト)において標準偏差値を48.5以上にする。

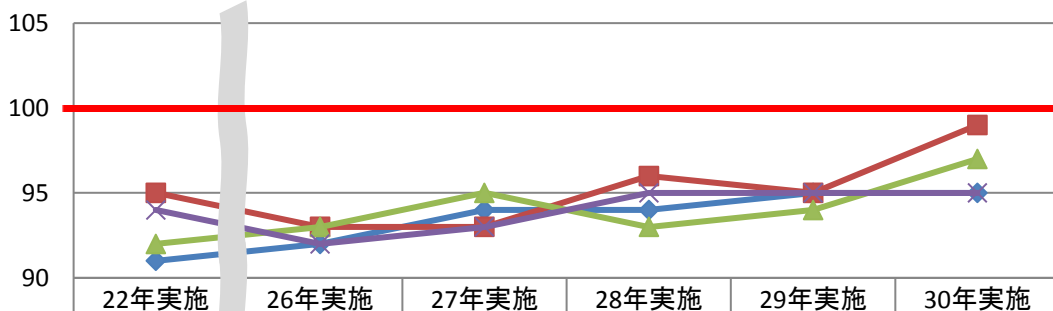
3.指標に向けての取組

- ・生徒授業アンケート「意欲をもって学習に取り組んでいる」肯定的回答80%以上
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」で肯定的回答の割合全国平均との差→全国平均以上にする。
- ・家庭学習の提出率学級平均80%以上
- ・休日の家庭学習を全くしない県平均以下にする。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	95	99	97	95
嘉麻市	98	98	97	96
全国	100	100	100	100

推移



	22年実施	26年実施	27年実施	28年実施	29年実施	30年実施
◆国語A	91	92	94	94	95	95
■国語B	95	93	93	96	95	99
▲数学A	92	93	95	93	94	97
×数学B	94	92	93	95	95	95

5.各学校における分析

・標準化得点から見ると、国語B、数学Aにおいて向上していた。
・問題別調査結果から見ると、国語A・B共に「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」といった内容の問題が課題である。
数学A・Bともに一次関数の問題に課題があり、数学Bの「数学的な表現を用いて説明する」「必要な情報を選択し、的確に処理する」問題に課題があった。
・解答類型調査結果から、生徒の誤答状況を見てみると、正答率が高い問題の中でも10人前後の生徒が、誤答している状況である。問題の内容を見ると、「基礎・基本的な問題」「情報を的確に読み取る問題」が多かった。

6.各学校における今後の取組

- 基礎・基本的な知識・技能の習得に向けて
 - ・朝のモジュール学習時による徹底反復学習
 - ・漢字、計算、英単語コンクールを2学期から実施
 - ・定期考査前の補充学習と定期考査後のフォローアップ学習の実施
- 思考力・判断力・表現力を高める取組
 - ・授業の中で、「書く活動」と「話し合う活動」を通して、自分の考えをまとめ、交流させる授業展開の工夫
 - ・定期考査の中で、思考・判断・表現力を問う問題の作成及びこれらの問題に対する授業の工夫
- 個に応じた指導
 - ・基礎・基本的な問題、発展問題を生徒の実態に応じて取組ませる

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

[嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。]

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

高校入試問題等の定期考査への取り入れと生徒による授業評価を確実にいき、その結果、日常の授業がどのように変容し「かく活動」がどのように充実したのかを年間を通して検証する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。